

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【 音楽 】

書名 項目	<h2>音楽のおくりもの</h2>	17 教出
内容	<児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>	
	○「必要感」 ・学びたくなるめあての提示の工夫 ・課題解決に向けた「見通し」の工夫	・簡潔で大きな目標とスモールステップの目標を示し、見通しをもって学んでいくための提示が細かく設定されている。 ・「まなびナビ」や「学び合う音楽」で学び方の例や発問例など学習のプロセスが示され、児童が見通しを持ち学習できるような工夫がされている。 ・「もっと遊ぼう」では、さらにチャレンジし学びたくなる課題が示されている。
	○「思考の深まり」 ・児童自身の思考を広げ深める工夫	・「音楽を形づくっている要素」を「音楽のもと」として示し、教材や活動に関連するものを見開きごとに明記して、児童がその働きを意識しながら学ぶことができるよう配慮されている。3～6年では自ら見つけた要素等を書きこむ「メモ欄」があり、学習を深めていけるような工夫がされている。 ・鑑賞の学習の二次元コードでは、曲によって主な楽器の楽譜が提示され、演奏と音符の点滅によって一緒に演奏されていることを可視化でき、思考が深まる工夫がされている。
	○「達成感」 ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫	・「学習マップ」を全学年の巻頭に示し、各題材で学習する内容を分かりやすく解説し、年間の学習の見通しが持てるような工夫がされている。 ・低学年では、拍を打ったりまねをしたりしてリズムを学ぶ活動や、よびかけと答えを体験する活動が多く掲載されている。 ・音符の名称や長さなど音楽記号が右端にまとめてあり、児童が学んだことをふりかえりやすく、楽譜を理解する工夫がされている。 ・巻末には「おんがくのもと」のまとめが掲載されており、生活と結びつくような言葉で表す工夫がされている。
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>	
○「教科等横断的な視点」 ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点	・国語や算数、他教科との係わりのある歌や、英語の歌「ショート タイム ラーニング」が巻末に掲載されている。 ・我が国の伝統的な楽器や民謡、諸外国の音楽などの鑑賞や表現を通して多様な文化と触れ合うことができる工夫がされている。	
その他	<資料の構成・配列や表記・表現> ○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。 ・日本の歌は、美しい見開きの写真があり、歌詞の情景が浮かびやすい工夫がされている。 ・楽譜がついた曲が多く、譜面も大きく掲載されている。1年生は1段の楽譜になっていて鍵盤ハーモニカと同じ大きさの写真が掲載されており、練習しやすい工夫がされている。 ○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。 ・「音楽のおくりもの」は全学年に掲載しており、低・中・高それぞれの発達段階に合わせた編成で、全校で合唱ができる工夫がされている。 ・UDの書体を使用し、色覚等への特性をふまえた判読しやすい配色やレイアウト、表現方法、文字の使用など細部にわたり、色覚特性を持つ児童への配慮がされている。	

第12採択地区教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告

種目（教科等）【音楽】

書名 項目	小学生の音楽	27 教芸
内容	<児童が「必要感」・「思考の深まり」・「達成感」を味わうことができる工夫がされているか>	
	<p>○「必要感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学びたくなるめあての提示の工夫・課題解決に向けた「見通し」の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・見開きごとに題材のねらいや音楽を形づくっている要素を具体的に示し「何を学ぶのか」が明確になり、児童の主体的な学習を引き出すような工夫がされている。 ・歌唱共通教材「こころのうた」に目標が示されていて、生涯にわたり歌い継いでいけるような工夫がされている。 ・鑑賞と表現が同じ題材の中に取り入れられていて、児童が意欲的に取り組める配慮がされている。
	<p>○「思考の深まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童自身の思考を広げ深める工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・「音楽づくり」は発達段階に応じて、手順を同じにして小節や音の数を増やすなど、児童の思考が深まる工夫がされている。 ・「見つける」「考える」「歌う、演奏する、つくる」をアイコンや吹き出しで示し、児童が思考を広げ、その思いを互いに伝え合ったりすることができる配慮がされている。
	<p>○「達成感」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した単元計画の工夫 ・学んだことを理解確認する「まとめ」の工夫 ・学んだことを生かし、生活を豊かにする態度につながる工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・題材ごとに立て札のマークで学んだことを振り返り、これからの学習につなげるような提示があり、児童が主体的に学習できるような工夫がされている。 ・年間の見通しが持てるよう、各学年の巻頭に概要を「学習マップ」で示し、巻末では「ふり返りのページ」で学習したことを確認できるような配慮がされている。 ・身の回りで見つけた音を音楽づくりの学習に取り入れたり、音や音楽に関わるコラムなどを設けたりして、児童が音楽科で学んだことを自分の人生や社会に生かすことができるような配慮がされている。
	<教科等横断的な視点を取り入れた工夫がされているか>	
	<p>○「教科等横断的な視点」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語活動 ・情報活用能力 ・問題発見・解決能力の視点 	<ul style="list-style-type: none"> ・二次元コードで歌唱の音取りをしたり、自分で操作し自動演奏機能で確かめながら音楽を作ったりすることで個別最適な学びをサポートできるような工夫がされている。 ・児童の思いを言語化し、子どもとムーブのイラストの吹き出しで示し、児童の興味・関心を引き出す工夫をしている。
その他	<資料の構成・配列や表記・表現>	
	<p>○児童が学びたくなる資料（挿絵・写真・図表等）の工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の合奏や踊りなど、幅広い音楽の教材が掲載され、我が国及び諸外国の音楽を鑑賞することにより、多様性を理解する学習の配慮がされている。 ・楽器の写真を大きく掲載し、楽器の一部を使って遊ぶ活動を取り入れ、楽器への関心を高められるような工夫がされている。 ・「がくふマスター」では、楽しく音楽記号を学ぶことができる工夫がされている。 <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、児童の発達の段階からどのような工夫が見られるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・色覚特性をはじめとして、さまざまな状態にある児童が等しく学習を進めることができるよう、イラストの色調を工夫し白を基調とするすっきりとしたデザインの配慮をしている。 ・合唱では、斉唱から交互唱、2部、3部と難易度が高くなるような工夫がされている。 	